

日本体育学会・（公社）全国大学体育連合 共催シンポジウム

**大学体育教員の資質向上の新しい取り組み**  
**「体育・スポーツ学検定」（仮称）の創設**

**深澤浩洋（筑波大学体育系）**  
日本体育学会大学体育問題特別委員会委員

# 背景・経緯

## ➤ 2013. 10 大学体育問題特別検討委員会の設置

- 「体育・スポーツ**指導者**検定制度」の検討
- 「体育・スポーツ**学**検定制度」の検討へ

## ➤ 2011. 10 : 〈参照基準〉の策定

- 全国体育系大学学長・学部長会 教育の質保障委員会
- **体育・スポーツ学分野における教育の質保障**

### —参照基準と教育関連調査結果—

#### ➤ 2008. 3 : 中教審「学士課程教育の構想に向けて（答申）」

- 学位、教育課程編成、入学者、教職員の能力開発、教育の質保証

#### ➤ 2010. 7 : 日本学術会議「大学教育の分野別質保証の在り方について（回答）」

- 学術会議を構成する約30分野に体育・スポーツ学分野のような学際的・複合的教育課程は取り上げられていない

# 体育学教育の質保証に関する調査（2014.6-7）

## ➤ 体育・スポーツ学検定に関する説明

- **体育系大学・学部ならびに教育学部保健体育専修を卒業する学生の質保証の観点から、「体育・スポーツ学検定」創設の検討を行っております。**
- **この検定では、①学部教育4年間の学習成果を測り、②運動指導、スポーツ関連事業等で求められる知識・資質を確認することを目的として、③4年次の前後期末各1回、④1回4時間程度で試験を行なうことを考えております。**
- **出題の領域としては、人文社会系、自然系、コーチング系のそれぞれから**体育・スポーツ学のコアとなる部分**と、体育科教員、スポーツコーチ、クラブマネージャー、トレーナーなど**職域に応じた選択的な部分**から構成することを想定しております。**

## ➤ 実施対象

- **体育・スポーツ系大学・学部**
  - 回答：27大学（回答者：29名）
  - 回答者：学長、学部長、事務部長等

## ➤ 実施方法

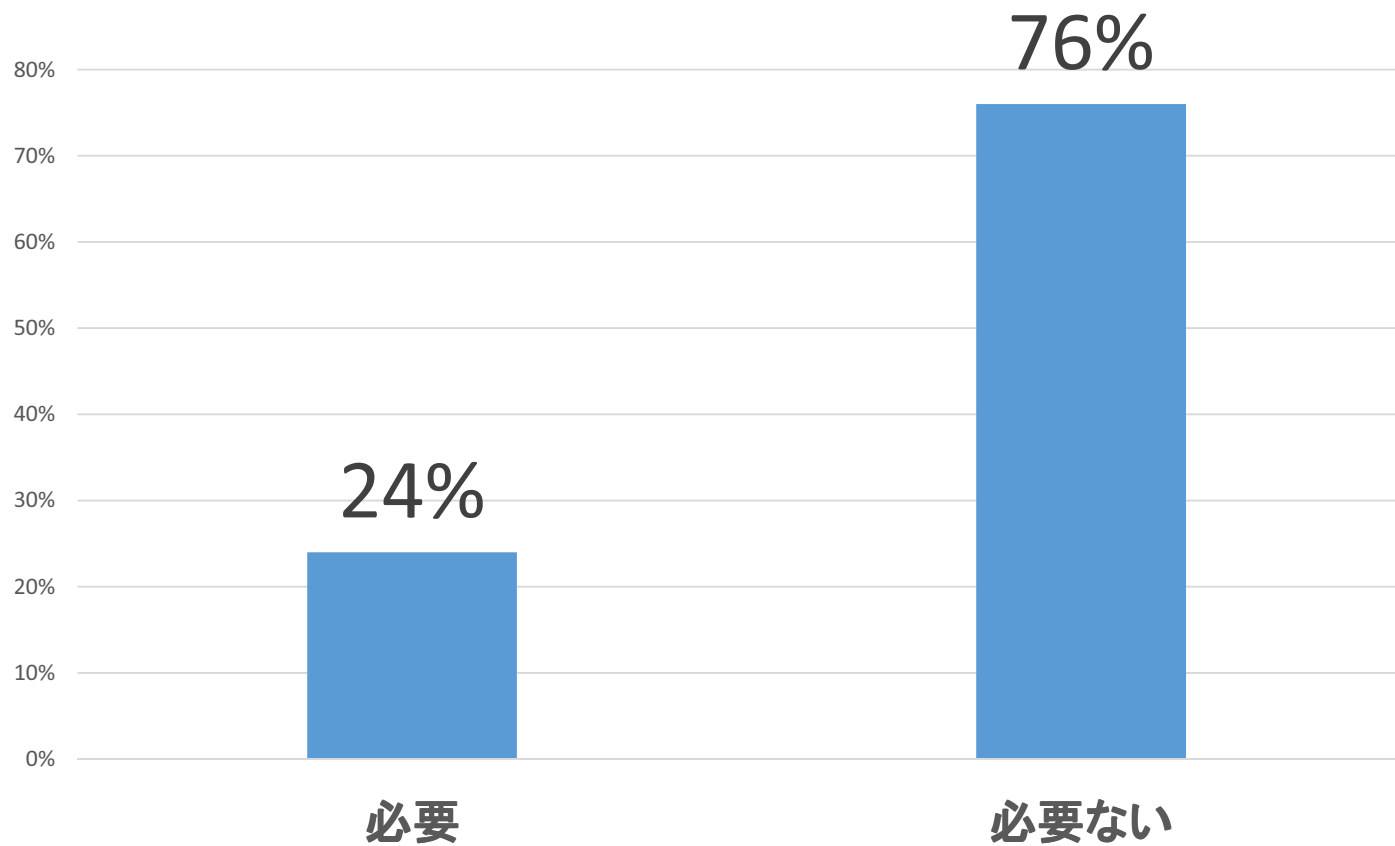
- 郵送またはメール

## ➤ 質問項目

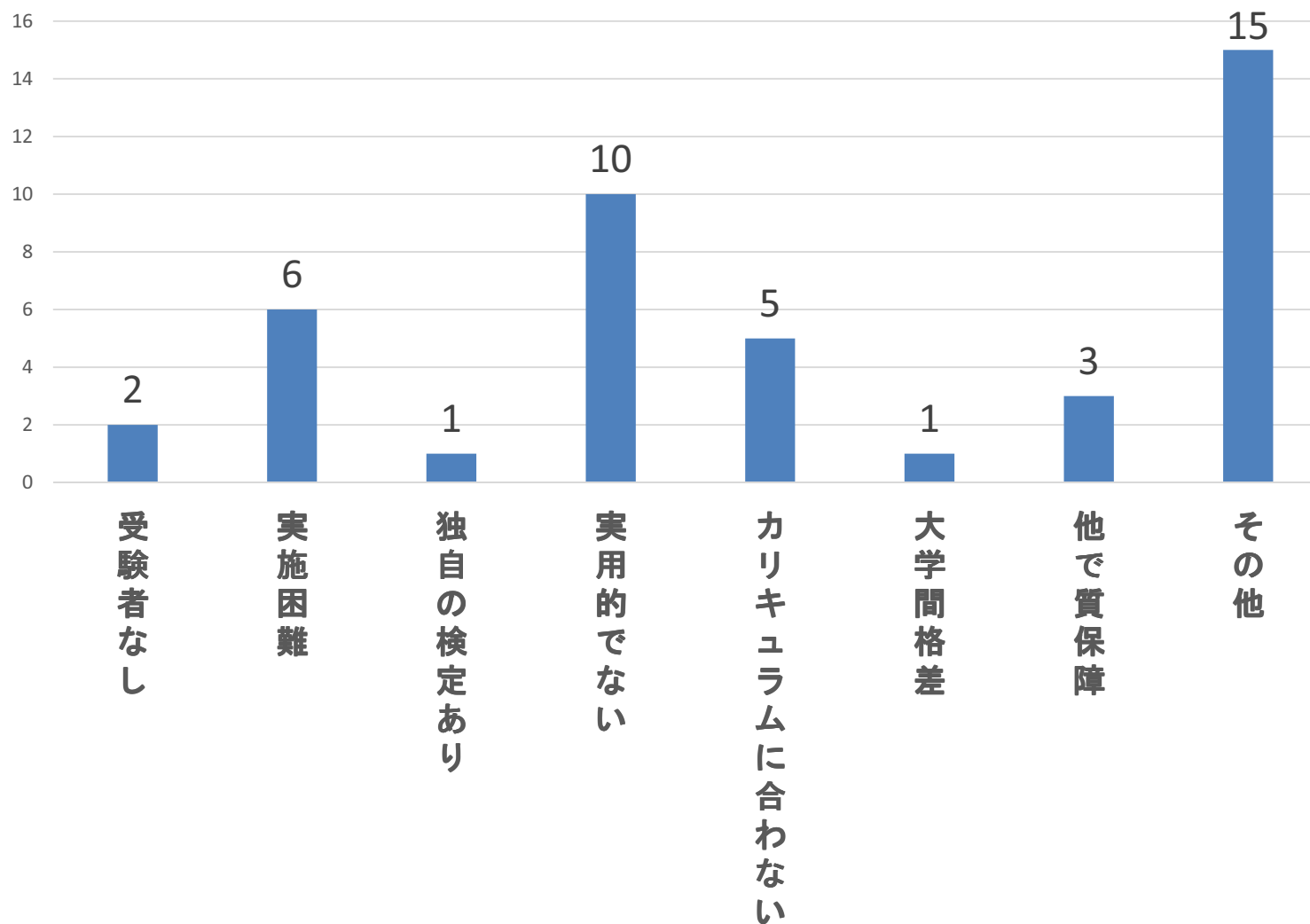
- 実施の必要性、不必要の理由、受験対象者、実施上の課題

# 体育・スポーツ学検定の必要性

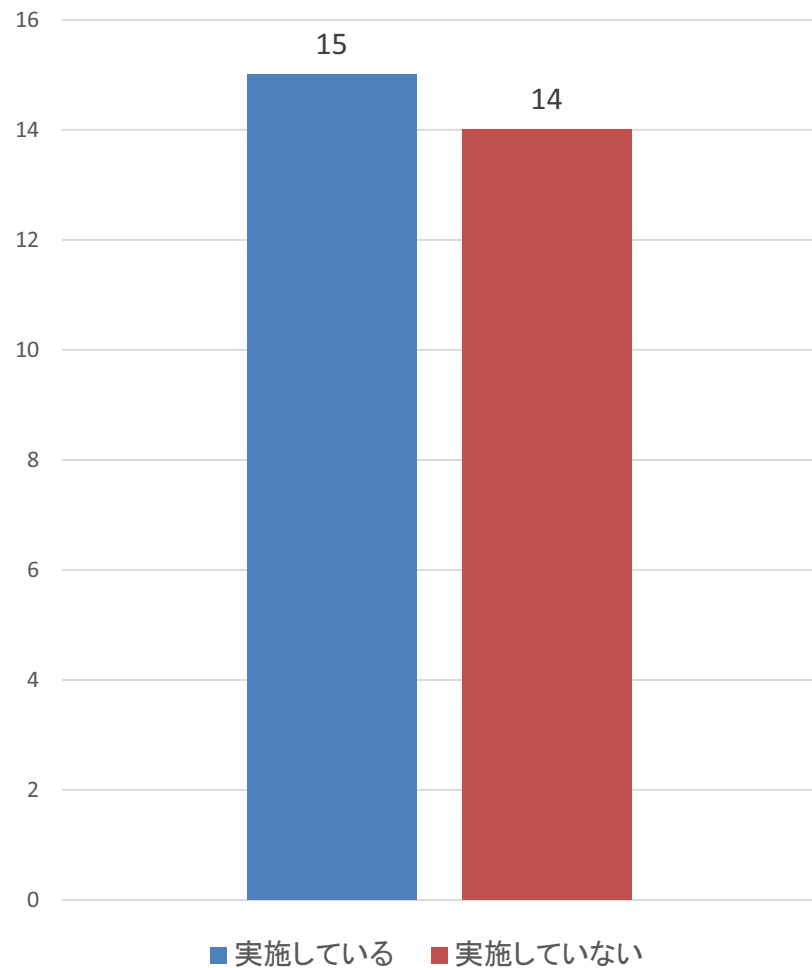
(回答：27大学、29名)



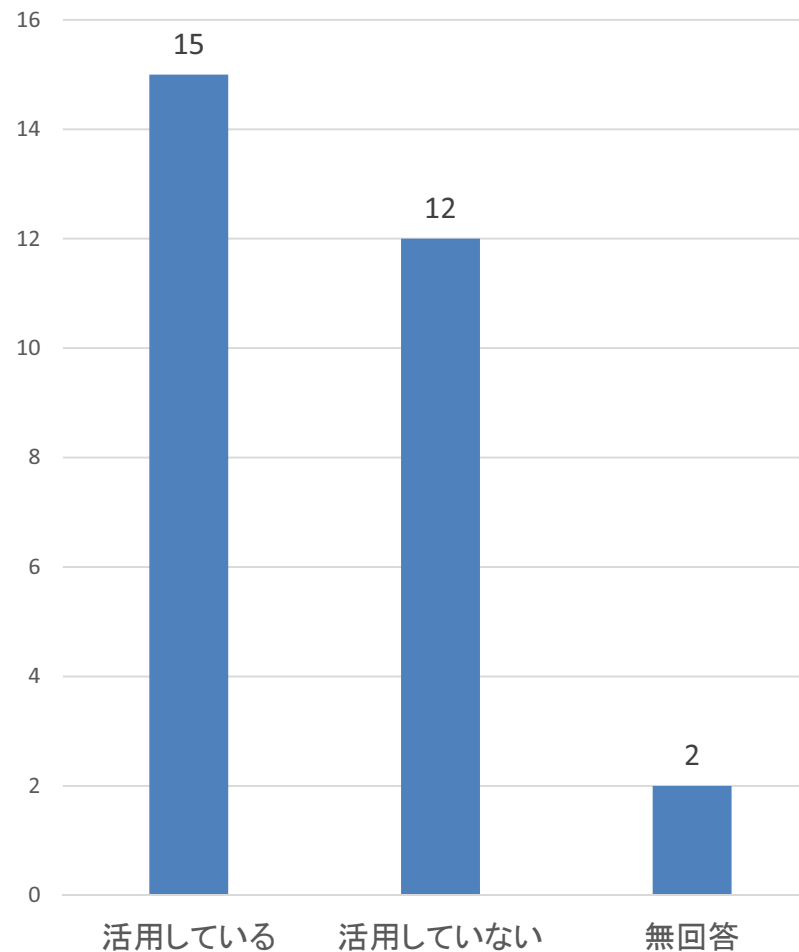
# 検定実施の必要がないと考える理由



### 「学修成果を測定するための客観的な指標の開発」を実施しているか



### 「教育課程編成上の参照基準」(2011年)は活用されているか



# 「学修成果を測定するための客観的な指標の開発」

1. 実技検定、講義内容を掲載し、予習、復習ができるサイトの開設
2. 2年次後期試験時にスポーツ健康科学検定を行っている。本学部では4コース(スポーツマネジメント、スポーツ科学、スポーツ教育学、健康運動科学)を設置しているが、各コースから担当者を選定し、試験問題作成、成績づけを行っている。
3. 早い段階で習熟度テストを実施し、教育内容把握を学年ごとに確認する手立てを講じている。この内容を入学経路別に斟酌し、その後の教育に反映させる計画
4. GPS制度の導入
5. GPAによる成績管理、成績低位者への直接指導、卒業時に成果測定では遅い
6. 教職実践演習
7. 学修成果に関する総合アンケートを卒業年度末に実施。設問は、本学の「人間形成」の5つの領域を学科ごとの専門領域についてである。
8. 授業の到達目標、重視する教育目標を明確にし、授業終了後のフィードバックアンケートにより達成度の分析を行っている。
9. 学修時間、自発的学修事項、将来の進路等の調査
10. 大学ポートフォリオ(到達度自己評価システム)の導入・運用
11. 授業評価、教員の成績評価、学位授与機構による評価
12. 授業毎の単位認定がそれに該当する
13. 大学全体、学部、学科単位でディプロマシーを設定し、達成度を評価、さらによりよい評価法について検討していく予定。
14. 学部内で継続的に検討を重ねている

- 検定、テストの実施
- GPA
- アンケート
- 授業等評価

# 〈参照基準〉の記載項目

## 1. 体育・スポーツ学の定義

- 総論
- 体育、スポーツ、健康と我々の学問分野
  - 体育と我々の学問分野
  - スポーツと我々の学問分野
  - 健康と我々の学問分野
- 名称：体育・スポーツ学

## 2. 体育・スポーツ学に固有の特性

- 学術特性
  - 基礎科学と実践科学の二面性
  - 学祭総合科学
- 身体運動を視点とする視座
- 体育とスポーツとの正の連鎖の創出

## 3. 体育・スポーツ学を学ぶ学生が修得すべき素養

- 社会における体育・スポーツ人
  - 専門職業人としての体育・スポーツ人
  - 専門職業人ではない体育・スポーツ人
- 体育・スポーツ学を学ぶすべての学生が獲得すべき基本的な知識の理解

- 専門職業人としての体育・スポーツ人になるための能力
- 体育・スポーツ学の援用力（ジェネリックスキル）

## 4. 体育・スポーツ学の学習方法と学習成果の評価方法

- 学習方法
- 評価方法

## 5. 市民性の涵養をめぐる専門教育と教養教育との関わり

- 体育・スポーツ学に内在する市民性の涵養機能
- 学部教育課程の枠組みの再構築

## 6. 専門教育課程外の体育・スポーツ学の学習

- 教職課程
- 運動部活動
- ボランティア活動
- リメディアル教育



# 検定の趣旨・イメージ

1. 体育・スポーツ系学部を卒業した学生の質を保証する
2. 体育・スポーツ系以外の学部を卒業した学生がその後学ぶべき内容を確認可能にする
3. 国際的に通用するようなスタンダードづくりも視野に入れる
4. 効率的で質保証を目指す「検定制度」の性格をもたせる
5. TOEIC, TOEFLのように素点を算出する

# 検定内容・項目

- (1) コア科目・コンテンツ：基礎・共通的な内容とし、各大学が共有できる科目・内容に限定
- (2) 選択科目・コンテンツ：特定分野に適合する内容で、各大学のディプロマ・ポリシー、重点的進路を踏まえる
- (3) 内容選定の方針：各領域が含む内容を「コア」と「オプション」に選別する

## <参照基準に掲載されている領域>

体育・スポーツ哲学	体育・スポーツ文化人類学	体育・スポーツ解剖学
体育・スポーツ史	体育・スポーツ測定評価学	バイオメカニクス
体育・スポーツ社会学	栄養学	保健学・健康学・衛生学
体育・スポーツ心理学	スポーツ医学	体育・スポーツ方法学/指導方法学
体育・スポーツ経営学	発育発達学	トレーニング方法論
体育・スポーツ教育学	体育・スポーツ生理学	アダプテッド・スポーツ

# コンテンツ選定の方針

## ◎コア・コンテンツ (C. C.)

- ①大学カリキュラムの専門基礎科目（必修科目）に相当する内容
- ②オプショナル・コンテンツ以外の内容

## ○オプショナル・コンテンツ (O. C.)

- ①既存の資格認定により備えられる知識・能力を参照
- ②次の資格・職域に求められる知識・能力

学校教員

競技スポーツ指導者

フィットネス系指導員

メディカル・コンディショニング系資格

マネジメント系資格

# 各研究領域の関連科目において修得が期待 されている内容例

〈参照基準〉より

領域	体育・スポーツ哲学	体育・スポーツ史	体育・スポーツ社会学
1	概念	ギムナスティケ	スポーツと政治
2	学問、学術	古代ギリシア競技祭	プロパガンダ
3	批判、推論	祭日スポーツ	スポーツと経済・商業、コマーシャリズム
4	帰納、演繹、仮説	騎士道	ナショナリズム、パトリオシズム
5	客体、主体	ルネッサンス	スポーツと人種、民族
6	体育、体育学	啓蒙主義	スポーツと宗教
7	普通体育、専門体育	汎愛体育	社会変動、グローバリゼーション
8	体育原理	グーツムーツ、ヤーン	スポーツ権
9	スポーツ、運動	ツルネン	スポーツの公共性
10	スポーツ文化、運動文化	近代スポーツ	スポーツフォアオール
11	心身関係論、心身一元論	アマチュアリズム	スポーツとコミュニティ
12	身体、身体文化	パブリックスクール	スポーツと環境
13	スポーツ美、身体美	近代オリンピック、クーベルタン	スポーツ参与
14	人間形成、人格陶冶	嘉納治五郎、大日本体育協会	高齢者のスポーツ
15	三育思想	相撲、蹴鞠、流鏝馬、鷹狩り	スポーツとジェンダー
16	フェアプレイ	藩校、武芸、武道	プレイ、プレイ論
17	ルール、規範、慣習、道徳	修練、体錬	スポーツ集団、運動部、体育会
18	スポーツ倫理	体操伝習所、リーランド	プロフェッショナルスポーツ
19	差別、区別、平等	体操、普通体操、兵式体操	オリンピズム、オリムピックムーブメント
20	指導、指導者	校内競技会、対校競技会	スポーツ振興



# コンテンツ選定の例ー体育・スポーツ哲学ー

## コア・コンテンツ (C. C.)

- ◎概念
- ◎帰納、演繹、仮説
- ◎客体、主体
- ◎身体、身体文化
- ◎体育、体育学
- ◎スポーツ、運動
  
- ◎スポーツ文化、運動文化
- ◎ルール、規範、慣習、道徳
- ◎フェアプレイ

## オプションナル・コンテンツ (O. C.)

- 学問、学術 (高専、大学)
- 批判、推論 (高専、大学)
- 普通体育、専門体育 (中学、高校)
- 体育原理 (中学、高校)
- 心身関係論、心身一元論 (高専、大学)
- スポーツ美、身体美  
(高専、大学、フィットネス)
- 人間形成、人間陶冶 (中学～大学)
- 三育思想 (中学～大学)
- スポーツ倫理 (スポーツ指導者)
- 差別、区別、平等 (中学～大学、  
スポーツ指導者、マネジメント)
- 指導、指導者 (中学～大学、  
スポーツ指導者)

# 試験問題の例－体育・スポーツ哲学－

## ➤ 適語選択方式：語句の適切な意味を判断

〔問〕 次の文章の [ ] に当てはまる語句を選びなさい。

体育哲学が体育の〔a〕を探究するものであるならば、そのための方法として適切なものはどのようなものだろうか。少なくとも、〔b〕を立て、実験によってデータを収集し、その〔b〕を検証した上で一般法則を導く、といった〔c〕的な手続きをとることはできない。

したがって、〔d〕法を用いるわけにはいかず、確実と思われる前提を基点とする〔e〕的な論理によって遂行される必要がある

ア. 本質    イ. 演繹    ウ. 仮説    エ. 帰納    オ. 弁証    カ. 実証

## ➤ 3択方式：文章の正誤を判断

〔問〕 次の2つの文章について、2つとも正しい内容であれば1、いずれかが誤りであれば2、いずれも誤りであれば3で答えなさい。

a) 体育をある命題の形で定義したものを体育の概念という。

b) 体育という名称（名辞）は体育の概念の一部である。

# 他分野の検定について

- **経済学検定** [NPO日本経済学教育協会：年2回]
  - ERE（180分）、EREミクロ・マクロ（100分）
  - 単位認定、大学院入試に活用
- **経営学検定** [（一社）日本経営協会：年2回]
  - 初級（大学2～3年生程度、90分）、中級（中堅社員、180分）、上級（MBA、160分）
  - 教育の評価指標、単位認定に活用
- **心理学検定** [日本心理学諸学会連合：年1回]
  - 1級（大卒程度：120分）、特1級（200分）
  - 教育成果の評価、大学院入試の一部に活用
- **法学検定** [（公財）日弁連法務研究財団など：年1回]
  - 基礎（大学2年生程度：120分）～上級（大卒程度：150分）
- **統計検定** [（一財）統計質保推進協会など：年3回]
  - 4級（中卒程度）～1級（大卒程度：120分）
- **考古学検定** [（公社）日本文化財保護協会：年1回]
  - 初級（大学の一般教養程度：60分）～上級（大卒程度：90分）～最上級（院卒程度）

# おわりに

- **体育・スポーツ系学問領域における多様性と大学の多様性**
  - 体育・スポーツ系としての共通性・まとまりを担保できるか
- **汎用性のある（特定の活用にむしろ縛られない）検定**
  - 具体的活用法はのちの動きとして期待
- **検定を企画・運営する第三者機関**
- **体育・スポーツ学検定の英文名（案）**
  - Test of Physical Education and Sport Sciences (TOPESS)
- **ご意見・ご感想のお願い**
  - [fukasawa@taiiku.tsukuba.ac.jp](mailto:fukasawa@taiiku.tsukuba.ac.jp)